令和 4 年度後期アーバンデザインスクール第 2 回実績報告書

1. 開催日時

令和 4 年 12 月 13 日（火）18 時 30 分～20 時 00 分

参加人数: 10 名（UDCBK での視聴: 5 名、オンライン: 5 名）

※オンラインでのアーカイブ配信の視聴回数は、6 回

2. テーマおよび話題提供者

「横浜の都市デザイン: その考え方から実践まで」

- 近年、道路空間や河川空間などの公共空間は、各地で人が楽しめる場へと生まれ変わっている。南草津でも、素敵な公共空間を創造するきっかけとなるように、多様な事例と実践的な手法を学ぶことを共通テーマとした「南草津のパブリックスペースの利活用に向けて」の第 2 回である。
- 第 2 回の本スクールは、横浜市 都市整備局 都市デザイン室 都市デザイナーの桂 有生 氏を講師に迎え、1970 年代に人間を中心とした都市デザイン活動を開始した横浜市の歩いて楽しいまちづくりなど、その都市デザインの考え方から実践について紹介いただいた。

4. 話題の概要

(1) 桂氏による講演

ア. 都市デザイン 50 年の軌跡

- 横浜の歴史は、幕末の開港から始まったと言える。以降、大火、震災、空襲などによる都市の破壊と復興・再生の繰り返しによって、まちがつくられてきた。
- 現在の横浜のアーバンデザインの基礎となっているものは、1965 年に策定された「都市づくりの将来計画の構想」である。
- 1960 年代前半から 70 年代後半の飛鳥田市政において、浅田孝氏、田村明氏などの都市計画の専門家がまちづくりに参画した。そして、公共事業である「プロジェクト (六大事業)」と市が主体性をもって土地利用を適正化する「コントロール」に加え、個性と魅力ある人間中心のまちづくりを目指す「アーバンデザイン」の三つを基本戦略とした。
- アーバンデザインを推進するにあたり、1971 年には全国に先駆けてアーバンデザイン専門のチームを市役所内に設置し、都市デザインの 7 つの目標をもとに事業展開を図った。ここから横浜の都市デザインの歴史が始まっている。
- 目標の中には、「歩行者活動を擁護し、安全で快適な歩行者空間を確保する」や「オープンスペースや緑を豊かにする」といった現在では一般的だが、当時としては先進的な価値を発信していた。

イ. 都市デザイン手法の展開

- 歩行者空間の展開: 六大事業とも関連しながら、「緑の軸線」や「ウォーターフロントの軸線」などを中心に、歩いて楽しいまちづくりを実践してきた。
- 歴史を生かしたまちづくりの展開: 横浜の歴史を象徴する建築物を残し、活用を促すことで、「都市の記憶」を紡ぎながらまちの魅力を高めてきた。
- 都市デザインを推進する連携の展開: 連携する主体や対象を広げながら、まちづくりの担い手を育成してきた。

ウ. 風景の解剖

- 日本大通り:
  歴史的建築物を活かしながら、歩行者空間を広げたり、オープンカフェを設置したりするなど歩行者にやさしいまちづくりを目指して、空間を再生させた。都市空間としてトータルで考えられたのは、市に都市デザイナーが在籍していたからとも言える。
- 象の鼻パーク:
  開港の地であり「緑の軸線」や「ウォーターフロントの軸線」の交点でもあるという横浜にとって一番重要な地を顕在化させながら憩いの場を創出した。
- 大さん橋～みなとみらい 21 新港地区～中央地区:

構築物が生み出す風景をデザインし、新しさと古さを織り交ぜることで横浜らしい魅力をつくり出した。

5. 質疑応答等

(1) 岡井氏: 既に 70 年代というモータリゼーションの時代に 7 つの目標を据えて、50 年後の今になって提唱されている歩行者優先のまちづくりを当時から進めていたということに驚いた。

桂氏: 当時の市長とデザイナーとの共鳴から生み出されたものだと思う。

岡井氏: これからの 50 年先に向けた目標なども考えておられるか。

桂氏: 現代の多様化している価値観の中では中々難しいところもあるが、時代を切り開いていくビジョンを提示することは大切だと考える。

(2) 参加者 1: 六大事業において、工業地帯を移転させたということだが、どういう理由によるものか。

桂氏: 都心部強化の意味合いと合わせて、当時、住宅地に工場が入り混じっており、公害問題もあり、別の場所への集約を図った。

参加者 1: 日本大通りのオープンカフェはどこか参考にした場所があるのか。

桂氏: 特定の場所を参考にしてはいない。先行しているヨーロッパなどは念頭に置きながらも、どこかをまねるというよりは独自のものを目指した。オープンカフェとしては日本でも先進的な取組であった。

6. アンケートまとめ

当日参加者、アーカイブ視聴者を含め、アンケートに回答いただいた方は 6 名だった。

問 1. 参加者属性

(1) 年代

10 代～20 代	30 代～40 代	50 代～60 代	70 代以上
1	4	1	0

(2) お住まい

草津市内に居住	草津市内に通勤・通学	県内他市に居住	滋賀県外に居住
5	0	1	0

(3) 職業

学生	大学関係者	会社員等	その他
1	1	3	1

(4) 開催を知った手段（複数回答の場合あり）

チラシ	ホームページ	SNS	メールニュース	広報誌	知人	その他
1	0	1	3	0	1	0

問 2. 今回、印象に残った点、講師の方へのメッセージなど

- かねてから興味のあった横浜市の都市デザイン（特に歴史を生かしたまちづくり）についてイメージを深められたと考えている。
- 歩行者を大切にする、ないがしろにしないまちづくり、人を幸せにする装置、様々な手法はツールであること。本来の人、市民、来街者を幸せにするという目的を思い返すことができました。
- 70 年代に歩行者中心の空間づくりに着手していたことに驚き。以降の事業についても、その当時の時代に合わない考え方も多かったが、行政として推進していった推進力の源はどこにあったのか気になりました。
- 取組がテーマにそってきちんとデザインされ積み重ねられていることがすごいと感じました。
- 横浜の都市デザインの歴史的背景を中心にしっかりと講義いただいて、まさにスクールと言う内容で、もちろん理解すべき内容ですが、一市民にとってのまちづくりの観点では、最後の各所のデザインの仕掛けの解説が大変興味深く（例: 植栽柵をベンチに利用出来るようデザイン）、この辺をより詳しく知りたいと思いました。

問 3. 今後のテーマや概要等についての要望

- 横浜の様々な事例、どれも興味深く少し時間が短いような印象でした。